

令和 3 年 度

教育委員会事務事業の点検及び評価報告書

令和 4 年 8 月
鹿角市教育委員会

「教育委員会事務事業の点検及び評価報告書」 目次

教育目標

心豊かで たくましく 郷土を愛し その発展に尽くす市民を育む教育を進める

I 学校教育の基本方針と重点目標

《担当課 総務学事課》

基本方針

社会の中でたくましく生き抜く心と体をもつ、志の高い子どもを育み、一人一人の個性や能力を伸ばすことのできる学校教育の充実を図る。

重点目標

(1) 確かな学力と高い志を育てる教育の充実

方針・目標	1
成果指標	1
事務・事業の内容	
① 児童生徒学力向上対策事業	1
② 外国語活動充実事業	1
③ 情報教育環境整備事業	1
④ I C T活用教育事業	1
⑤ 夢の教室開催事業	1
⑥ 特色ある学校づくり推進事業	2
⑦ ふるさと・キャリア教育推進事業	2
⑧ ふるさとかつの絆プラン事業	2
点検及び評価	2

(2) 豊かな心と健やかな体を育み、将来の自立を支える教育の充実

方針・目標	3
成果指標	3
事務・事業の内容	
① フッ化物洗口事業	3
② 学校給食の実施（たらふくかつのの日）	3
③ 中学校部活動指導員配置事業	3
④ 特別支援教育支援員配置事業	3
⑤ 課題研究活性化事業	3
⑥ かつのこもれび教室事業	3
⑦ かつのこもれび相談事業	3
点検及び評価	3

(3) 学校教育環境の充実を図り、地域とともに取り組む、多様で質の高い教育の実現

方針・目標	4
成果指標	4
事務・事業の内容	
① 小中学校普通教室等空調設備設置事業	4
② 通学対策事業	4
③ 獣害・感染症対策	4
④ 鹿角市学校多忙化防止計画の推進	5
⑤ 校務支援システム構築事業	5
⑥ 学校教育懇談会事業	5
⑦ 特色ある学校づくり推進事業【再掲】	5
⑧ 学校運営協議会の立ち上げ	5
⑨ 奨学資金貸付事業	5
点検及び評価	5

Ⅱ 生涯学習推進の基本方針と重点目標

《担当課 生涯学習課》

基本方針

生涯にわたって、いつでも、どこでも、だれでも学習できる機会を充実し、その成果を生かすことができる、地域社会の実現を目指す。

重点目標

(1) 生涯学習推進体制の充実と人材育成

方針・目標	6
成果指標	6
事務・事業の内容	
①-1 花いっぱい運動	6
①-2 地域学校協働活動推進事業	6
①-3 かづの人財発掘事業	6
②-1 インターネットを活用した情報発信や講座等の開催	6
③ 施設間連携事業	7
④ 読書活動の推進	7
点検及び評価	7

(2) 地域を担う人材の育成

方針・目標	7
成果指標	7
事務・事業の内容	
① 「どごさデモ」出前講座の開催	7
② かづの人財発掘事業【再掲】	7
③-1 花いっぱい運動【再掲】	7
③-2 高校生ボランティアの活動支援	7
点検及び評価	8

(3) 地域・学校・家庭の連携による子どもたちの育ちと学びの支援

方針・目標	8
成果指標	8
事務・事業の内容	
① 地域学校協働活動推進事業【再掲】	8
② 学校運営協議会との連携	8
③ 家庭教育推進事業	9
④ 子育て支援関係団体との連携	9
⑤ 青少年健全育成事業	9
点検及び評価	9

(4) 地域特性や各世代に対応した学習と活動の支援

方針・目標	9
成果指標	9
事務・事業の内容	
①-1 成人式の開催	9
①-2 各市民センター事業	9
②-1 歴史民俗資料館の運営	10
②-2 先人顕彰館の運営	10
②-3 ふるさと・キャリア教育推進事業【再掲】	10
②-4 地域学校協働活動推進事業【再掲】	10
③ 高齢者の活動支援（各市民センター活動）	10
④-1 生涯学習奨励員活動	10
④-2 かづの人財発掘事業【再掲】	10
点検及び評価	10

(5) 誰もが共に学びあえる地域社会の実現		
方針・目標		11
成果指標		11
事務・事業の内容		
① 「比内支援学校かづの校」との連携		11
② パラリンピック種目体験		11
③ 日本語講座開設事業		11
点検及び評価		11

Ⅲ スポーツ推進の基本方針と重点目標

《担当課 スポーツ振興課》

基本方針

スポーツへの参加を促進する取組の充実を通じて、スポーツに親しみ、心身ともに健康で文化的な生活を営むことができる地域社会の実現と、恵まれたスポーツ環境を生かして活力に満ちたまちづくりを展開する。

重点目標

(1) 生涯スポーツの普及推進

方針・目標	12
成果指標	12
事務・事業の内容	
① チャレンジデーの開催	12
② タートルマラソンの開催	12
③ 総合型地域スポーツクラブの育成	12
点検及び評価	12

(2) スポーツによるまちづくりの推進

方針・目標	13
成果指標	13
事務・事業の内容	
① スポーツ拠点づくり推進事業	13
② 「スキーのまち」の推進	13
③ 「駅伝のまち」の推進	13
④ はばたけアスリート鹿角コーチング事業	13
⑤ スキー駅伝選手育成強化対策事業	13
点検及び評価	13

(3) 指導体制の確立と指導者の育成

方針・目標	14
成果指標	14
事務・事業の内容	
① 市民スポーツ活動を支える団体との連携拡充	14
② 指導者の育成と活用	14
点検及び評価	14

(4) スポーツ施設の利用促進と整備

方針・目標	15
成果指標	15
事務・事業の内容	
① スポーツ施設の利用促進	15
② スポーツ施設の整備・充実	15
点検及び評価	15

IV 文化芸術振興の基本方針と重点目標

《担当課 生涯学習課》

基本方針

ふるさと鹿角の歴史・伝統・文化への理解を深め、創造力と感性を育み、郷土が世界に誇る文化遺産を核とした心豊かで活力ある地域社会の実現を目指す。

重点目標

(1) 文化芸術活動の振興

方針・目標	16
成果指標	16
事務・事業の内容	
① 文化の杜交流館事業	16
② 文化芸術振興事業	16
点検及び評価	16

(2) 文化財の保存と活用

方針・目標	17
成果指標	17
事務・事業の内容	
①-1 文化財保存事業	17
①-2 大日堂舞楽保存伝承事業	17
①-3 声良鶏保存奨励事業	17
①-4 花輪祭の屋台行事保存修理事業	17
②-1 歴史民俗資料館の運営【再掲】	17
②-2 先人顕彰館の運営【再掲】	17
②-3 鹿角市民俗芸能フェスティバルの開催	17
点検及び評価	17

(3) 世界遺産登録の推進

方針・目標	18
成果指標	18
事務・事業の内容	
①-1 世界遺産登録推進事業	18
①-2 大湯環状列石魅力アップ事業	18
② 大湯ストーンサークルの情報発信	18
点検及び評価	18

教育委員会事務事業点検評価〈概要〉

19～22

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抄)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

I 学校教育の基本方針と重点目標

1 基本方針

社会の中でたくましく生き抜く心と体をもつ、志の高い子どもを育み、一人一人の個性や能力を伸ばすことのできる学校教育の充実を図る。

2 重点目標

(1) 確かな学力と高い志を育てる教育の充実

方針・目標	①確かな学力の定着 ②ふるさとを支える気概を持った人材の育成 ③情報活用能力とコミュニケーション能力の育成
成果指標	標準学力調査における全国平均正答率との比較（小学 4～6 年生） （前年）102% （実績）100% （R7 目標）103% 標準学力調査における全国平均正答率との比較（中学 1～2 年生） （前年）107% （実績）110% （R7 目標）103%
事務・事業の内容	①児童生徒学力向上対策事業 標準学力調査 小学校 4～6 年生 670 人 中学校 1～2 学年 443 人 Hyper-QU 検査(年 2 回) 小学校 4～6 年生 延べ 1,345 人 中学校 1～2 年生 延べ 893 人 ②外国語活動充実事業 A L T（外国語指導助手）配置 3 人 学校訪問 小学校 授業時数 1,750 時間 配置時数 1,414 時間（配置割合 81%） （3・4 年は週 1 時間のうち 1 時間、5・6 年は週 2 時間のうち 1 時間） 中学校 授業時数 3,500 時間 配置時数 760 時間（配置割合 22%） （週 4 時間のうち 1 時間） ③情報教育環境整備事業 電子黒板配置 中学校 4 校 （電子黒板、タブレット、デジタル教科書（社会）） 小学校 6 校 （電子黒板、タブレット、書画カメラ、デジタル教科書（社会、理科、英語）） ④I C T活用教育事業 校内通信ネットワークの活用（小学校 6 校、中学校 4 校） 児童生徒 1 人 1 台端末の活用 計 2,098 台 小学校 児童 1,288 台 指導者 72 台 中学校 生徒 708 台 指導者 30 台 ⑤夢の教室開催事業 夢の教室 オンライン実施のため参加希望小学校なし

	⑥特色ある学校づくり推進事業 キャリアアップ講座等を各校で開催 中学校 4 校 全学年参加 開催総数 9 回 ⑦ふるさと・キャリア教育推進事業 ふるさと・キャリア教育コーディネーター配置 1 人 夢探究プロジェクト（夢たん）の受入事業所数 181 社 職場体験・職場見学 延べ 1,271 人参加 地域イベント等へのボランティア 延べ 0 人参加 ⑧ふるさとかつの絆プラン事業 小学校 4 校 開催総数 5 回 中学校 2 校 開催総数 3 回
点検及び評価	☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る ①学力向上対策については、Hyper-QU 検査において小学校 4 年生を新たに調査対象に加えることで、標準学力調査の実施学年との整合性が図られるようになった。これにより、今後は学力と学級の状態を関連させた分析が可能となる。また、Hyper-QU 検査を年 2 回にしたことで、1 回だけでは見えてこなかった課題が明らかになったり、指導や支援の改善につなげたりすることもできるようになってきた。 ②外国語活動充実事業では、それぞれの A L T が教員と積極的に教材研究を行い、子どもたちを引き付ける授業づくりが行われており、外国語教育の充実が図られている。 ④G I G A スクール構想に基づく I C T 教育環境が整備され、導入した Chrome book 端末が課題への取り組みに必要な情報収集や知識・アイデア等を共有できる新しいツールとして活用され、これらの学びが新たな発見や理解につながり、児童生徒の学習意欲の向上が図られている。 ⑥中学校におけるキャリアアップ講座では、生徒のニーズに合わせて、鹿角や秋田県内で活躍している人々を講師に迎え、ふるさとで働く喜びについて学ぶことができた。また、夢や目標に向かうための心構えや意欲をもつことにもつながってきている。 ⑦キャリア教育コーディネーターの働きかけにより、コロナ禍ではあったものの新たな受け入れ事業所を開拓して、多くの職場見学や職場体験を提供することができた。 ⑧ふるさとかつの絆プランでは、これまで各校で行っていたふるさと・キャリア教育を他校と合同で行うことにより、より広い視野で鹿角のよさを捉えるきっかけとなった。年度末には動画配信で各校の取組を紹介することにより、次の意欲につなげることもできた。

(2) 豊かな心と健やかな体を育み、将来の自立を支える教育の充実

方針・目標	①豊かな心の育成 ②健やかな体の育成 ③一人一人のニーズに応じた、きめ細かな教育の推進
成果指標	市内教職員の研修会等参加率 (前年) -% (実績) 40% (2校1団体3回開催) (R7目標) 25%
事務・事業の内容	①フッ化物洗口事業 実施人数：小学校 1,207 人 (96.8%) 中学校 673 人 (97.3%) ②学校給食の実施 (たらふくかづのの日) 年 5 回実施 ③中学校部活動指導員配置事業 花輪中学校陸上部 1 名配置 十和田中学校バスケットボール部 1 名配置 ④特別支援教育支援員配置事業 学校生活サポーター配置 小学校 6 校 14 人 学習支援サポーター配置 中学校 4 校 3 人 ⑤課題研究活性化事業 研修会開催 2 校 1 団体 78 人参加 ⑥かづのこもれび教室事業 入級申請 10 人 ⑦かづのこもれび相談事業 対象：不登校傾向の中学生 25 人と小学生 13 人 相談件数 (延べ件数)：来所 166 件、電話 444 件、訪問 2 件 (合計) 612 件 専門員による相談件数：カウンセリング 29 件、心理判定・報告 43 件
点検及び評価	☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る ③中学校部活動指導員配置事業により、部活動を充実させるとともに、顧問教員の負担軽減及び学校全体の業務の平準化が図られるようになってきている。アンケートでは、指導に対する満足度は全県 68.9% に対して、鹿角市は 2 校とも 71.4% と高い結果となった。また、顧問教員が属する学年所属の教員の時間外勤務が 2 校合わせて前年度比約 488 時間の減となり、顧問教員が属する学年所属教員 1 人あたりに換算すると、時間外勤務時間が年間 54 時間減少したことになる。 ⑤課題研究活性化事業では、LGBT などの性的マイノリティの生徒に対する学校の対応や、不登校児童・生徒およびその保護者への対応についての研修、また主体的・対話的で深い学びとなる授業改善についての講話やワークショップなど、貴重な研修機会が設定され、参加者は理解を深めることができた。 ⑥多様な要因を背景とした長期欠席及び不登校傾向の児童生徒には、安心できる居場所を提供し、学校復帰に向けた足がかりとなる個別の学習指導や体験活動を行うこもれび教室が重要な役割を果たしている。また、児童生徒だけでなく、保護者の心理的支援としての役割も大きい。 ⑦不登校傾向の児童生徒の状況を学校や保護者から継続的に聞き取ったことを基にし、臨床心理士による心理検査や関係機関との連携につなげることができている。今後も個々に応じたきめ細やかな支援を続ける必要がある。

(3) 学校教育環境の充実を図り、地域とともに取り組む、多様で質の高い教育の実現

方針・目標	①安全・安心・良質な学びの場づくり ②教職員のモチベーションと資質の向上 ③地域とともに推進する特色ある学校づくり
成果指標	全国学力学習状況調査児童生徒質問紙 ・今住んでいる地域の行事に参加している児童の割合（小学6年生） （前年）-% （実績）80.8% （R7目標）85.0% ・今住んでいる地域の行事に参加している生徒の割合（中学3年生） （前年）-% （実績）63.8% （R7目標）85.0% ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童の割合 （小学6年生） （前年）-% （実績）76.0% （R7目標）66.0% ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある生徒の割合 （中学3年生） （前年）-% （実績）60.3% （R7目標）66.0%
事務・事業の内容	①小中学校普通教室等空調設備設置事業 普通教室、特別支援教室、職員室、校長室へ設置 ・小学校（柴平・十和田・尾去沢・八幡平） 機械設備 ㈱イトウ建材店（R3.2.19～R3.7.15） 電気設備 ㈲海沼電気工事（R3.2.19～R3.7.15） ・小学校（花輪・大湯） 機械設備 ㈱カンザイ（R3.4.8～R3.9.6） 電気設備 菅原電気㈱（R3.4.8～R3.9.6） ・中学校（花輪・十和田・尾去沢・八幡平） 機械設備 ㈱カンザイ（R3.4.8～R3.9.13） 電気設備 ㈲奥村電気工事（R3.4.8～R3.9.13） ②通学対策事業 通学路合同点検の実施 8月19日 小中学校通学路（改善・要望箇所）26ヵ所 スクールバス・タクシー利用 小学校 遠距離 6校111人 準遠距離 2校38人 中学校 遠距離 2校69人 準遠距離 3校77人 通学対策費補助金（路線バス定期券購入費補助）受給者 小学校 遠距離 3校39人 準遠距離 4校51人 中学校 遠距離 3校33人 準遠距離 3校28人 ③獣害・感染症対策 ・熊よけ鈴・・・全児童生徒へ配付 ・熊忌避剤・・・熊の目撃情報があった小中学校へ配置 ・緩衝帯整備事業等・・・大湯小、尾小、花中周辺の林の下刈りを実施 ※併せて、花中コスモスロード法面の樹木伐採も実施 ・感染症対策用消耗品・・・消毒液、マスク、使い捨て手袋等の購入

	④鹿角市学校多忙化防止計画の推進 「第1次鹿角市立小・中学校多忙化防止計画」に基づき、学校の業務改善を図り、児童・生徒と向き合う時間の確保や教育の質的向上を図っている。 令和3年度の勤務時間外在校時間の月平均（目標：月平均45時間以内） 小学校：年間平均34.7時間 中学校：年間平均49.1時間 ⑤校務支援システム構築事業 名簿情報、出欠情報、指導要録作成、学校保健総合管理について電子化を図っている。リース期間：令和元年11月1日～令和6年10月31日 ⑥学校教育懇談事業 学校教育懇談会 12月1日 協議：「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」 ⑦特色ある学校づくり推進事業【再掲】 地域に根ざした特色ある教育活動を推進し、生きる力を育む教育活動を充実させるため、鹿角のよさを学んだり体験したりする活動を支援した。 ⑧学校運営協議会の立ち上げ 8協議会（尾去沢・八幡平は小中合同） 委員 延べ114人 協議会3回、熟議1回開催 ⑨奨学資金貸付事業 貸付実績 高校～高専前期3年 10,000円 0人 0円 高専後期2年～大学 30,000円 41人 14,400,000円 （うち2人は6ヶ月間）
点検及び評価	☐目標を上回る ☒ほぼ目標どおり ☐目標をやや下回る ☐目標を大幅に下回る ①コロナ禍での熱中症対策として、小中学校へ空調設備を設置したことにより、児童生徒等の快適な学習環境を確保することができた。 ②通学路合同点検については、各学校からの改善要望のあった通学路の現地確認を関係者と実施し、危険箇所等の情報共有とともに、安全確保に向けた改善要望を行った。 ③登下校時の安全対策として全児童生徒へ熊よけ鈴を配付するとともに、学校周辺に熊を近づけないよう忌避剤の設置と、樹木伐採や下刈りを行い、児童生徒の安全確保が図られた。 ④市内の教員の時間外在校時間については、様々な取組や業務改善を行うことで、小・中学校ともに徐々に改善されつつある。 ⑥学校教育懇談会では、地域代表者、PTA関係者、保育園・学校関係者が、新たに始まる部活動改革に対して、グループ協議を通して理解を深めた。 ⑦地域の人材や素材を生かした学習を通して、ふるさと鹿角に対する理解を深めることができた。また、中学校においては、自校や市内・県内出身者等を講師に招き、キャリア教育も充実させた。各校の取組は、市内の学校間のポータルサイトで公開し、自校の学習や他校との交流に生かした。 ⑧学校と地域が、情報を共有し連携した取り組みを行うことにより、一体となって子ども達を育てるという意識の醸成と、コミュニティ・スクールの推進体制を構築することができた。

Ⅱ 生涯学習推進の基本方針と重点目標

1 基本方針

生涯にわたって、いつでも、どこでも、だれでも学習できる機会を充実し、その成果を生かすことができる、地域社会の実現を目指す。

2 重点目標

(1) 生涯学習推進体制の充実と人材育成

方針・目標	①社会教育関係団体、福祉関係団体、自治会等との連携 ②インターネットの活用による情報発信の強化 ③社会教育施設等の連携による生涯学習環境の充実 ④読書を通じた多様な学習活動の推進
成果指標	インターネットを活用した講座の年間開催数 (前年) 7 件 (実績) 7 件 (R7 目標) 5 件 社会教育施設年間利用者数 (前年) 201,060 人 (実績) 257,132 人 (R7 目標) 313,300 人 [図書館 (移動図書館車含) (前年) 92,203 人 (実績) 93,226 人 (R7 目標) 130,000 人 先人顕彰館 (前年) 1,011 人 (実績) 1,520 人 (R7 目標) 1,600 人 歴史民俗資料館 (前年) 1,567 人 (実績) 2,715 人 (R7 目標) 1,700 人 大湯ストーンサークル館 (前年) 13,627 人 (実績) 30,587 人 (R7 目標) 30,000 人 文化の杜交流館 (図書館、未来センター、花輪市民センター除く) (前年) 92,652 人 (実績) 129,088 人 (R7 目標) 150,000 人]
事務・事業の内容	①-1 花いっぱい運動 ・参加団体数 59 団体(花の種子、花苗の斡旋) ・全国、全県花だんコンクールへの参加 6 団体 ・花づくり講習会の開催 1 回 ①-2 地域学校協働活動推進事業 ・わくわく土曜教室の開催 20 回 ・わくわく土曜教室参加者数 延べ 349 人 ・わくわく土曜教室ボランティア数 延べ 60 人 ①-3 かづの人財発掘事業 ・かづの人財発掘講座の開催 4 回 ・参加者数 延べ 105 人 ②-1 インターネットを活用した情報発信や講座等の開催 ・SNS アカウント開設数 4 サイト ・ほくろくオンラインツアーの開催 (文化財等の紹介) 2 回 ・博物館講座の開催 (特別史跡の紹介) 1 回

	③施設間連携事業 ・地域学校協働本部と花輪図書館、歴史民俗資料館との共催事業 1 件 ④読書活動の推進 ・花輪図書館 利用者 69,245 人 貸出数 76,481 冊 ・十和田図書館 利用者 17,520 人 貸出数 27,228 冊 ・移動図書館 利用者 6,461 人 貸出数 22,837 冊
点検及び評価	☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る ①わくわく土曜教室及びかづの人財発掘講座は、多様な団体との連携・共催により内容の充実が図られ、特に人財発掘講座は参加者の年代の広がりがみられた。 ②インターネットの活用では、SNS の登録者が増しているほか、新たに文化財のオンラインツアーなどを北鹿地区 4 市町村で共同実施し、コロナ禍においても学びの場を提供することができた。今後は周知機会の拡充が必要である。 ③施設間の連携では、各施設が所有する資料の相互活用や、同一テーマによる企画展の実施等により、企画内容に厚みが増し、参加者の満足度につながることで期待できるため、一層の連携強化が必要である。 ④図書館利用者数は、巣ごもり需要もあり全体では利用者数・貸出冊数ともに前年度を上回った。また、学校との連携では、ビブリオバトルやブックトーク等、図書館への依頼や相談も増加傾向にある。移動図書館車については新規車両の導入効果もあり、利用者数、貸出冊数が過去 5 年間で最も多くなった。

(2) 地域を担う人材の育成

方針・目標	①意欲的に学習活動に取り組む人材の育成 ②地域課題に対応した学習機会の充実、学習活動の支援 ③市民の主体的な地域活動への支援
成果指標	どごさデモ出前講座年間利用件数 (前年) 68 件 (実績) 78 件 (R7 目標) 170 件 市民センター新規サークル登録団体延団体数 (5 年累計) (前年) 2 団体 (実績) 7 団体 (R7 目標) 20 団体
事務・事業の内容	①「どごさデモ」出前講座の開催 ・提供講座数 45 メニュー ・全体開催回数 78 回 ・参加者数 延べ 2,007 人 ②かづの人財発掘事業【再掲】 ③-1 花いっぱい運動【再掲】 ③-2 高校生ボランティアの活動支援 ・社会参画事業参加者数 花輪高校 100 人、十和田高校 86 人
点検及び評価	☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る

	①「どごさデモ」出前講座については、新型コロナウイルス感染症による自粛の影響を受けたものの、昨年度と比較すると実施件数・参加者数が共に回復傾向にある。市民ニーズとしては例年通り福祉系のメニューが人気であるが、文化財関連講座の人気も高まっている。 ②かづの人財発掘講座についてはテーマを「お金」と題し、PTAや市民センター、図書館などの協力を得ながら参加を募り開催し、一定の参加者が得られた。市民ニーズの高い講座の設定や周知方法について、さらなる工夫が必要である。 ③花いっぱい運動については、申込団体は昨年比で3団体の減少であったが、花苗の注文数は3年連続増加している。また、全県花だんコンクールへの応募はここ数年同じ団体のみであったが、新たに尾去沢中学校からの応募があった。さらに、花づくり講習会を開催し、事後アンケートを実施したが、9割超の参加者が「参考になった」との回答を得たほか、次年度に向けたニーズも把握することができた。高校生ボランティアの活動については、コロナ禍により受け入れ事業の中止が相次いだが、ボランティアの志望者の多くはボランティア部員やキャリアアップを目指す2、3年生の生徒であり、これまでの取り組みもありボランティアに対しての高い意欲は保たれている。
--	---

(3) 地域・学校・家庭の連携による子どもたちの育ちと学びの支援

方針・目標	①地域学校協働活動の推進 ②学校運営協議会と地域学校協働本部の連携 ③家庭教育支援の取組強化 ④子育て支援関係団体との連携 ⑤青少年の健全育成を支える市民活動の推進
成果指標	地域学校協働活動におけるボランティア延べ人数 (前年) 1,239 人 (実績) 1,003 人 (R7 目標) 1,250 人 青少年育成鹿角市民会議の会員数 (前年) 312 会員 (実績) 315 会員 (R7 目標) 350 会員
事務・事業の内容	①地域学校協働活動推進事業【再掲】 ・地域学校協働本部会議の開催 2 回（うち書面開催 1 回） ・コーディネーターの配置 8 人（統括 1 人、地域コーディネーター 7 人） ・学校支援ボランティア数 延べ 922 人 ・わくわく土曜教室の開催【再掲】 ・かづの未来塾の開催 12 回、参加者数延べ 216 人 ・未来塾ボランティア数 延べ 21 人 ・子ども対象事業年間スケジュール表「ばらえてい いんふお」の発行 通年版 1 回、改訂版 2 回発行 ②学校運営協議会との連携 ・合同研修会の開催 2 回 ・オーダーメイド型社会教育主事の派遣 2 件

	③家庭教育推進事業 ・家庭教育講座の開催 小学校 1・中学校 2 校 参加者延べ 269 人 ・子育て講座 小学校 5 校 参加者延べ 107 人 ④子育て支援関係団体との連携 ・わくわく土曜教室「チャレンジ THE スポーツ」の児童センターとの共催 ・未来センターでの読み聞かせサークル「ママの本棚」発足支援 ⑤青少年健全育成事業 ・声かけ運動の実施 年 8 回（4・9 月は一斉キャンペーン） ・第 33 回少年の主張大会 中学生弁士の参加者 5 人 ・青少年を育てる市民のつどい 参加者約 100 人
点検及び評価	☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る ①地域学校協働活動に携わるボランティア数は、コロナ禍による制限が影響し前年度より減少した。かつの未来塾については 2 年ぶりの再開であったが、リピーターが増える等、参加者や保護者からの一定の評価があった。 ②子どもを地域で育てるという理念は着実に浸透してきているため、地域学校協働活動との一体的な推進を図るためには、学校運営協議会委員と地域学校協働活動推進員の共通理解をさらに深めていく必要がある。 ③家庭教育支援については、保護者アンケートで「専門的な講話が聞きたい」という要望が多く挙がっているため、保護者と学校側とのニーズを汲み取りながら、内容を設定する必要がある。 ④子育て支援関係団体との連携については、わくわく土曜教室を児童センターと共催したほか、読み聞かせサークル発足支援など連携が進んできている。 ⑤「少年の主張大会」については一部縮小しての実施となったが、「青少年を育てる市民のつどい」では昨年度に引き続き著名な講師による講演を開催できた。

（４）地域特性や各世代に対応した学習と活動の支援

方針・目標	①同世代交流・世代間交流、人的ネットワークの拡充 ②地域の歴史や伝統、文化、人材を生かした学習活動の推進 ③高齢者の生きがいづくりや仲間づくりの支援 ④学びの成果を地域に還元し、次世代に継承する活動の支援
成果指標	生涯学習・社会教育講座年間参加者数 （前年）7,846 人 （実績）10,246 人 （R7 目標）18,000 人 ふるさと・キャリア教育受入新規登録事業所延べ件数（5 年累計） （前年）9 件 （実績）10 件 （R7 目標）15 件
事務・事業の内容	①-1 成人式の開催 ・式典、記念公演の開催 1 回（1 月） 参加者 153 人 ・新成人による実行委員会の開催 6 回 ①-2 各市民センター事業 ・社会教育関係団体登録数 221 団体

	(花輪 97、十和田 78、尾去沢 20、八幡平 26) ②-1 歴史民俗資料館の運営 ・入館者数 2,715 人 (R2 : 1,567 人 前年比 173%) ・企画展、特別展の開催 5 回、1,955 人 ・講座、講演会の開催 4 回 (うち 1 回はコロナ対策のため中止)、19 人 ②-2 先人顕彰館の運営 ・入館者数 1,520 人 (R2 : 1,011 人 前年比 150%) ・特別展示 「相馬大作事件と鹿角」 ・文化講演会の開催 2 回、107 人 ②-3 ふるさと・キャリア教育推進事業【再掲】 ②-4 地域学校協働活動推進事業【再掲】 ③高齢者の活動支援 (各市民センター活動) ・老壮大学等参加者数 1,711 人 ④-1 生涯学習奨励員活動 ・生涯学習奨励推進協議会の開催 2 回 ・北鹿地区生涯学習奨励員連絡協議会事業への参加 ④-2 かつの人財発掘事業【再掲】
点検及び評価	☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る ①成人式については、コロナ禍により予定していた 8 月開催から 1 月開催へ延期となったが、2 年ぶりに開催することができた。新成人で組織する実行委員会が中心となり困難な状況の中で、オンライン視聴を行うなど、工夫した内容となった。 ②歴史民俗資料館については、常設展示のほか 4 つの企画展と特別展示を開催した。また、観光スタンプラリーに参加したことで、まちなか周遊の効果がみられ、隣県・県内を中心に最多の来館見学者数となった。先人顕彰館については、新たに鹿角人物事典講座、親子絵画教室、史跡を巡るフィールドワークを開催するなど、これまでにない参加者の獲得につながっている。 ③高齢者の生きがいづくりや仲間づくりでは、各市民センターを拠点として、学習活動、健康づくりなど、コロナ禍にあっても、地域の特徴を生かして工夫した内容で実施されている。 ④生涯学習奨励員の活動については、コロナ禍により、活動が困難な状況が続いていたが、市民センター等での活動や他地域との交流が再開されてきており、今後はウィズコロナ時代に適した活動が求められている。

(5) 誰もが共に学びあえる地域社会の実現

方針・目標	①障がい者・児童の学習活動の支援 ②共生社会に対する市民の意識向上 ③日本語を母国語としない市民の日本語及び日本文化に対する学びの支援
成果指標	障がい児・者に配慮した生涯学習講座等の延べ提供数（5年累計） （前年）0 講座 （実績）5 講座 （R7 目標）20 講座 日本語教室延べ参加者数 （前年）283 人 （実績）266 人 （R7 目標）280 人
事務・事業の内容	①「比内支援学校かづの校」との連携 ・十和田図書館 Towada Gallery (11/11～11/28) 見学者 159 人 ・りんごレンジャーと合同での声かけ運動一斉キャンペーンの実施 ②パラリンピック種目体験 ・わくわく土曜教室（放課後チャレンジ広場）「ボッチャ体験」参加者 28 人 ・十和田 3 学園合同研修会「ボッチャ大会」 参加者 60 人 ・十和田わんぱくスクール「シッティングバレー体験」 参加者 34 人 ③日本語講座開設事業 ・日本語教室の開催 26 回、参加者延べ 266 人
点検及び評価	☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る ①主に比内支援学校かづの校の児童生徒の活動支援を展開したが、教員より、子どもたちの活躍の場が増えることに対する感謝の意を伝えられた。関係者向けの成果発表にとどまることなく、広く一般市民に対する活動紹介の場の提供に努めていきたい。 ②夏季・冬季パラリンピック開催年でもあり、パラスポーツに対する関心が高まった年に体験講座を実施した。誰でも参加しやすい講座の実施、障がい者も健常者と一緒に体験できる講座の実施により、市民の共生社会に対する意識向上が図られるよう努めたい。 ③日本語教室については、コロナ禍により通常の対面形式での実施ができず、通信形式の語学習得のみとなったが、学習機会の提供は確保することができた。

Ⅲ スポーツ推進の基本方針と重点目標

1 基本方針

スポーツへの参加を促進する取組の充実を通じて、スポーツに親しみ、心身ともに健康で文化的な生活を営むことができる地域社会の実現と、恵まれたスポーツ環境を生かして活力に満ちたまちづくりを展開する。

2 重点目標

(1) 生涯スポーツの普及推進

方針・目標	①生涯スポーツの充実 ②スポーツによる健康づくりの推進 ③スポーツボランティアの育成と活用
成果指標	週1回以上、運動やスポーツに親しんでいる市民の割合 (前年) 52.2% (実績) 52.8% (R7 目標) 65%
事務・事業の内容	①チャレンジデーの開催 参加率 12.6% 参加者 3,763 人 対戦相手の岩手県陸前高田市(20.8%) ②タートルマラソンの開催 参加者 256 人 (5km : 9 人 3km : 88 人 1km : 159 人) ③総合型地域スポーツクラブの育成 市内で 3 つのクラブが活動しており、地域住民を対象に子どもから高齢者まで、それぞれの志向やレベルに合わせたスポーツ教室などを実施
点検及び評価	☐ 目標を上回る ☐ ほぼ目標どおり ☒ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る ①気軽に参加できるスポーツイベントとして定着してきたチャレンジデーは、コロナ禍のため、実施時期の変更や参加者の集計方法が変更されたことにより、参加率の低下となった。 ②幅広い年代が参加したタートルマラソンは、参加者を鹿角地域に限定して開催したが、前回を上回る参加者数となった。 ③総合型地域スポーツクラブの育成では、ウォーキング事業に補助しているが、コロナ禍以前に近い参加者となった。

(2) スポーツによるまちづくりの推進

方針・目標	①「スキーのまち」の推進 ②「駅伝のまち」の推進 ③スポーツ拠点づくりの推進 ④子どもたちの夢と希望を育むスポーツ環境の充実
成果指標	スポーツ合宿奨励補助金利用人数 (前年) 1,124 人泊 (実績) 2,372 人泊 (R7 目標) 3,600 人泊 共通シーズン券購入補助制度利用人数 (前年) 76 人 (実績) 79 人 (R7 目標) 90 人 浅利純子杯争奪鹿角駅伝、十八駅伝エントリーチーム数 (前年) 【中止】 (実績) 73 チーム (R7 目標) 120 チーム
事務・事業の内容	①スポーツ拠点づくり推進事業 サマーノルデッィクスキー大会 参加者数 220 人 スポーツ合宿奨励補助事業 申請団体 40 団体 交付人数 716 人 ②「スキーのまち」の推進 全国ローラースキー選手権大会 【中止】 岩泉杯松橋杯争奪少年ジャンプ大会 【中止】 ジュニアスキーヤー共通シーズン券発行 発行人数 79 人 ③「駅伝のまち」の推進 十和田八幡平駅伝競走全国大会 【中止】 浅利純子杯争奪鹿角駅伝 参加チーム数 72 チーム ④はばたけアスリート鹿角コーチング事業 陸上ジュニアクリニック 【中止】 ローラースキージュニアクリニック 参加者数 55 人 楽天野球教室 【中止】 ジュニアスキーヤー(スキー授業)指導者派遣事業 小学校 5 校、中学校 1 校 延べ 15 回 66 人 特別講師派遣事業 比内支援学校、ハニーハイム ⑤スキー駅伝選手育成強化対策事業 アルペン 4 事業、クロカン 3 事業、ジャンプ 4 事業、駅伝 1 事業
点検及び評価	☐ 目標を上回る ☐ ほぼ目標どおり ☒ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る ①スポーツ合宿奨励補助事業については、前年比の約 2 倍となっており、約 70%がスキー競技における合宿となっている。 ③十八駅伝については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止としたが、浅利純子杯争奪鹿角駅伝については、会場を総合競技場に移して感染症対策を講じて開催することができた。 ○コロナ禍において、感染状況を見極め、可能な限り事業を実施することができた。

(3) 指導体制の確立と指導者の育成

方針・目標	①スポーツ団体の組織強化と活動の充実 ②指導者の育成と活用
成果指標	市スポーツ協会の構成員数 (前年) 5,801 人 (実績) 5,894 人 (R7 目標) 5,500 人 ジュニアクリニック受講者の大会参加者数 (前年) 【中止】 (実績) 55 人 (R7 目標) 1,000 人 市スポーツ少年団指導者等登録人数 (前年) 322 人 (実績) 284 人 (R7 目標) 330 人
事務・事業の内容	①市民スポーツ活動を支える団体との連携拡充 スポーツ協会は、統括組織として市民スポーツの健全な普及・発展を図るとともに市民の健康づくりに寄与している。 また、記念スポーツセンター、城山・毛馬内野球場の指定管理者となっており、効率的で安全な施設の管理を行っている。 ②指導者の育成と活用 資格制度の変更に後、初めてコロナ禍での講習会が開催され、補助制度により資格取得に係る負担軽減を図り、指導者の登録数の増加が図られている。
点検及び評価	☐ 目標を上回る ☐ ほぼ目標どおり ☒ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る ①スポーツ協会については、市民スポーツ活動を支える団体であるため、現在のところ補助金及び指定管理料により運営されている状態にあるが、団体の性質上、自主事業による自立が難しいことから、引き続き支援していかねばならない。 ②指導者確保の面で資格取得に係る費用の負担軽減を図るため、補助制度を継続しており、スポーツ協会及びスポ少本部と連携して、資格取得に向けた取り組みを行う必要がある。

(4) スポーツ施設の利用促進と整備

方針・目標	①スポーツ施設の利用促進 ②スポーツ施設の整備・充実			
成果指標	スポーツ施設の利用者数 (前年) 128,654 人 (実績) 192,935 人 (R7 目標) 260,000 人			
事務・事業の内容	①スポーツ施設の利用促進			
	市営野球場 城山、毛馬内 (4/10～11/10)	利用者数	5,274 人	
	市民プール 鹿角 (旧花輪)	利用者数	10,070 人	
	東山スポーツレクリエーションエリア	利用者数	83,097 人	
	アメニティパーク	利用者数	23,714 人	
	記念スポーツセンター	利用者数	13,971 人	
	水晶山スキー場	利用者数	11,536 人	
	市立ゲートボール場	利用者数	479 人	
	大湯相撲場	利用者数	627 人	
	スポーツ振興課所管以外 ※	利用者数	44,167 人	
	※ 市内全スポーツ施設を対象としたため追加			
	②スポーツ施設の整備・充実			
	花輪スキー場圧雪車修繕			
	花輪スキー場案内看板修繕			
	アルパス看板塔修繕			
	花輪スキー場水道管漏水修繕			
	花輪スキー場ジャンプ台スロープカー修繕			
	アメニティパーク倶楽部ハウス給水設備交換工事			
	城山野球場メイン・サブSBO改修工事			
	花輪スキー場散水用ポンプ他改修工事			
	スポーツセンターバスケットボールゴールワイヤー交換等工事			
	水晶山スキー場スキーハウス屋根塗装工事			
	花輪スキー場第2高速ペアリフトシーケンサ更新工事			
	花輪スキー場第2リフト終点監視所改修工事			
	アルパス空調配管補修工事			
	花輪スキー場乗用草刈機購入			
点検及び評価	□目標を上回る □ほぼ目標どおり ■目標をやや下回る			
	□目標を大幅に下回る			
	①施設利用については、指標を市内の全スポーツ施設とし、所管外施設の利用者数を加えることとしたが、昨年同施設で比較した際、利用者数は増加している。			
	②施設整備においては、施設の老朽化に伴い計画的な修繕等に加え、緊急的な修繕等も増加しているが、安全・安心な施設利用のため、効率的な整備が図られた。			

Ⅳ 文化芸術振興の基本方針と重点目標

1 基本方針

ふるさと鹿角の歴史・伝統・文化への理解を深め、創造力と感性を育み、郷土が世界に誇る文化遺産を核とした心豊かで活力ある地域社会の実現を目指す。

2 重点目標

(1) 文化芸術活動の振興

方針・目標	①文化芸術に触れる機会の充実 ②特色のある文化芸術活動の推進
成果指標	一年間に芸術鑑賞に親しんだ割合 (前年) 39% (実績) 23% (R7 目標) 45.0%
事務・事業の内容	①文化の杜交流館事業 ・入館者数 260,086 人 (R2 : 218,709 人 前年比 119%) ・文化ホール自主事業の開催 4 回 入場者数 1,314 人 ・館連携事業コモッセバースデイの開催 参加者数延べ 794 人 ・市民サポーター企画事業の開催 2 回 参加者数延べ 130 人 ・共催事業の開催 2 回 参加者数延べ 393 人 ②文化芸術振興事業 ・第 50 回鹿角市かるた選手権大会 新型コロナウイルス感染症拡大により R4 年度へ延期 ・花輪市民センター企画展示「百人一首かるたと鹿角」(1/4～1/31) ・歴史民俗資料館企画展示「ひな飾り」(2/15～3/6)
点検及び評価	☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る ①文化の杜交流館事業については、コロナ禍により中止となった催しがあったものの、宝くじ公演「オーケストラできくジブリ音楽」、名取裕子「みちのく巡礼話芸劇場 続津軽世去れ節」など開催した公演は好評で、一定の鑑賞機会を確保することができた。 ②第 50 回鹿角市かるた選手権大会とかるた練習会は新型コロナウイルス感染症拡大により開催延期となったが、ギャラリー展でかるたを取り上げ展示することにより、市内の文化に触れる機会を確保することができた。

(2) 文化財の保存と活用

方針・目標	①文化財の保存・継承 ②文化財の活用
成果指標	無形民俗文化財の保存を担っている団体の構成員数 (前年) 1,849 人 (実績) 1,743 人 (R7 目標) 1,740 人
事務・事業の内容	①-1 文化財保存事業 ・古文書整理 45 回(週 1 回) 解説ボランティア 3 人、助言指導 2 人 ・古文書整理委員会の開催 3 回 ①-2 大日堂舞楽保存伝承事業 ・大日堂舞楽保存伝承事業費補助金 1 件 ①-3 声良鶏保存奨励事業 ・声良鶏保存奨励金 1 件 ①-4 花輪祭の屋台行事保存修理事業 ・花輪祭の屋台行事保存修理事業費補助金 1 件(舟場町) ②-1 歴史民俗資料館の運営【再掲】 ②-2 先人顕彰館の運営【再掲】 ②-3 鹿角市民俗芸能フェスティバルの開催 ・入場者数 322 人 ・出演: 毛馬内盆踊(十和田)、下川原駒踊(花輪) 根子番楽(北秋田市)、願人踊(八郎潟町)
点検及び評価	☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る ①古文書整理については、平成 30 年度より 8 万点余りの史・資料の目録作成作業を市民ボランティアの参加を得ながら行っている。民俗芸能の保存継承と人材育成では、大日堂舞楽の継承活動、声良鶏の飼育と大会開催、花輪ばやしの屋台修理を支援した。 ②コロナ禍により多くの祭典が中止、縮小となり、保存団体からは、民俗芸能そのものの存続や後継者育成に不安の声が聞かれる。

(3) 世界遺産登録の推進

方針・目標	①大湯環状列石の世界文化遺産登録の推進 ②大湯環状列石の情報発信
成果指標	特別史跡大湯環状列石の世界文化遺産登録 (実績) 7/27 世界文化遺産登録決定「北海道・北東北の縄文遺跡群」
事務・事業の内容	①-1 世界遺産登録推進事業 ・世界遺産委員会パブリックビューイング 参加者 145 人 ・ポスター・パネル展 2 箇所（ストーンサークル館、文化の杜交流館） ・ミニパネル展 3 箇所（鹿角市役所、先人顕彰館、歴史民俗資料館） ・企画展示「大湯環状列石 90 年のあゆみ展」 ①-2 大湯環状列石魅力アップ事業 ・体験学習（常設）の実施 参加者延べ 1,479 人（前年度 1,168 人 前年比 127%） ・ガイド入門講座の開催 6 回 参加者延べ 25 人 ・ガイドレベルアップ講座の開催 3 回 参加者延べ 31 人 ・体験学習 J OMO ラボの開催 3 回 参加者延べ 31 人 ②大湯ストーンサークルの情報発信 ・入館者数 30,587 人 (R2: 13,627 人 前年比 224%) ・遺跡ガイド ①ガイド対応延べ人数 1,025 人 (R2: 409 人 前年比 251%) ②利用人数 6,825 人 (R2: 1,375 人 前年比 496%) ③ガイド利用率（利用人数/入館者数）22% (R2: 3%)
点検及び評価	☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る ①大湯環状列石を含む、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が 7 月 27 日に世界文化遺産登録決定となった。当日はパブリックビューイングを行い、多くの市民とともに決定の瞬間を祝うことができたほか、登録記念のポスター・パネル展を開催するなど、広く周知した。 ②大湯ストーンサークル館は、世界文化遺産登録により、ツアー等で訪れる来館者が増え、ガイドの需要も急増した。ガイドの育成が急務となっているため、入門講座やスキルアップ講座の実施など、引き続きガイドの育成を図るとともに、基礎となる遺跡自体の学術的な魅力を高めていく必要がある。

教育委員会事務事業点検評価〈概要〉

（根拠法令）

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条の規定による

（実施要綱）

鹿角市教育委員会事務事業点検評価実施要綱（平成 26 年 1 月 6 日教育委員会訓令第 1 号）による

（点検評価の対象）

令和 3 年度に教育委員会が実施した事務事業

（点検評価の実施日）

令和 4 年 6 月 27 日（月）

（点検評価委員）※五十音順

阿部 義弘 委 員
石井 勲 委 員
岩館 裕章 委 員
田口 将 委 員

（点検評価の結果）

点検評価委員による外部評価

- ・Ⅲ スポーツ推進の重点目標（２）～（４）について、
「目標をやや下回る」から「ほぼ目標どおり」に１ランク上げ、
- ・Ⅳ 文化芸術振興の重点目標（３）について、
「ほぼ目標どおり」から「目標を上回る」に１ランク上げ、「内部評価を承認」

項 目	目標を上回る	ほぼ目標どおり	目標をやや下回る	目標を大幅に下回る
Ⅰ 学校教育の重点目標				
(1) 確かな学力と高い志を育てる教育の充実	☐	☒	☐	☐
(2) 豊かな心と健やかな体を育み、将来の自立を支える教育の充実	☐	☒	☐	☐
(3) 学校教育環境の充実を図り、地域とともに取り組む、多様で質の高い教育の実現	☐	☒	☐	☐
Ⅱ 生涯学習推進の重点目標				
(1) 生涯学習推進体制の充実と人材育成	☐	☒	☐	☐
(2) 地域を担う人材の育成	☐	☒	☐	☐
(3) 地域・学校・家庭の連携による子ども達の育ちと学びの支援	☐	☒	☐	☐
(4) 地域特性や各世代に対応した学習と活動の支援	☐	☒	☐	☐
(5) 誰もが共に学びあえる地域社会の実現	☐	☒	☐	☐
Ⅲ スポーツ推進の重点目標				
(1) 生涯スポーツの普及推進	☐	☐	☒	☐
(2) スポーツによるまちづくりの推進	☐	☒	☐	☐
(3) 指導体制の確立と指導者の育成	☐	☒	☐	☐
(4) スポーツ施設の利用促進と整備	☐	☒	☐	☐
Ⅳ 文化芸術振興の重点目標				
(1) 文化芸術活動の振興	☐	☒	☐	☐
(2) 文化財の保存と活用	☐	☒	☐	☐
(3) 世界遺産登録の推進	☒	☐	☐	☐
合 計	1	13	1	0

点検評価委員よりいただいたご意見は次のとおりです。

点検評価の結果並びに委員の意見等を踏まえ、より一層効果的に成果が得られるよう創意工夫を凝らしながら事務事業を展開してまいります。

I 学校教育の重点目標

(1) 確かな学力と高い志を育てる教育の充実

⑧ふるさとかつの絆プラン事業

【ご意見】	・鹿角全体を我がふるさとと捉えた鹿角愛を醸成するための活動内容はとても素晴らしいし、小中学生のうちに鹿角の誇りとなるものをもっと多く体験させたいと思う。尾去沢鉱山や大湯ストーンサークル等の見学、きりたんぽづくり体験等、子どもたちが経験できる機会や体制を作ってほしい。
【ご意見 に対し】	・外部団体等が企画する観光施設の体験等はあるが、教育委員会事業の中で市内の小中学生が体験する機会は少ないので、今後の事業に反映できるように検討していきたい。

(3) 学校教育環境の充実を図り、地域とともに取り組む、多様で質の高い教育の実現

⑥学校教育懇談事業

【ご意見】	・部活動改革について、どの程度の内容が話し合われたのか教えてほしい。 ・部活動の地域移行は令和5年度から3年間で移行することとなっており、各市町村の実情に合わせた形を作ってもらおうという国の方針なので、鹿角バージョンを一刻も早く構築していく必要があると思うが、現時点で協議していることはあるのか。クラブチームでの参加など全国大会のあり方も変わってきているので、対応が遅れると子どもたちのスポーツ環境も非常に危機的だと感じている。
【ご意見 に対し】	・学校教育懇談会の中で、部活動の地域移行に関する能代市や羽後町の取り組み、青森県の吹奏楽部の様子のほか、その時点での国の方針等を説明し、それを受けてグループ協議、意見交換を行った。 ・中学校部活動の地域移行化は非常に重要な問題であるが、県においても検討を進めている段階で、まだ市で具体的な方針は決まっていない。国の方針に沿いながら市独自の方針を立て、組織作りや受け皿を構築していきたいと考えている。

⑦特色ある学校づくり推進事業

【ご意見】	・地域の人材や素材が生かされていることはとても良いことであるが、特徴的な取組例はどのようなものがあるか。
【ご意見 に対し】	・花輪小と十和田小の交流では、それぞれが取り組んでいる花輪ばやしと毛馬内盆踊りをお互いに紹介、披露し合い、尾去沢中と八幡平中の交流では、それぞれ現地を訪れて、鉱山ガイドと大沼ガイドの交流を行うなど、これまでふるさとキャリア教育として各校だけで取り組んでいたものを、小学校同士、中学校同士で学区を越えた交流につなげ、お互い学びあい、各々の良さを知り、自分たちのこれまでの活動を見直す機会につながるなどの充実が図られている。

⑧学校運営協議会の立ち上げ

【ご意見】	・学校運営協議会の委員を務めたが、教員と地域の代表の皆さんが熟議を通して、違う視点からお互いにいろいろなことを話し合い、考えることが大変有意義だった。指導者がたくさんいて何でも学校が頑張っていた時代から、教育活動を地域にお願いしなければならなくなった時に、地域の方も高齢化や人口減少等で教育力が低下
-------	---

	しつつあるという状況の中で、学校運営協議会というのは、先生たちにとっても地域の人たちにとってもお互いの考えに触れる機会となり、考えを共有した先に、ではどうすればいいかを参加者の中から出てきた意見で活動していくことが大事である。行政や学校から要望されて活動しても長続きしなくやりがいにもつながらないが、熟議を通して自分たちで考え出された事業はお互いにやりがいを持って進んでいけると思うので、ぜひこの事業が発展していくように願っている。
--	---

Ⅱ 生涯学習推進の重点目標

(1) 生涯学習推進体制の充実と人材育成

【ご意見】	・新型コロナの感染拡大の中においても、社会教育施設の年間利用者数が前年度を超えていることは評価したい。特に歴史民俗資料館や先人顕彰館は、タイムリーな企画で斬新さや親しみやすさもあり、入館者を引きつける内容であるので、担当者や主催者の企画力に敬意を表したい。
-------	---

①-2 地域学校協働活動推進事業

①-3 かづの人財発掘事業

【ご意見】	・わくわく土曜教室やかづの人財発掘講座について成果が見られるようだが、特徴的な取組内容を教えてほしい。
【ご意見 に対し】	・わくわく土曜教室は、全て市民センターや図書館、児童センターとの共催で実施しており、ボッチャの体験やパソコンを使ったプログラミング体験を中学生まで幅を広げて実施したほか、マッチで火をつけることがなかなかできない子どもたちにたき火で焼き芋を作る体験など、各団体の協力を得て行った。また、人財発掘講座は、お金をテーマにした講座を4回開催したが、子育て世代向けの iDeCo や NISA、親子で参加する株式講座などを企画したところ今まで参加が少なかった若い世代の参加が増えた。

(3) 地域・学校・家庭の連携による子ども達の育ちと学びの支援

①地域学校協働活動推進事業

②学校運営協議会との連携

【ご意見】	・地域の力が弱くなってきていると思うが、地域というものをどのように捉えているか。地域と学校が連携して子どもたちを育んでいこうということには賛成だが、肝心の地域が高齢化や少子化により、実際に子どもと関わりたくてもなかなかチャンスがないというギャップを感じる。協議会の委員だけでなく、地域に広げていく仕組みを作ればよいと思う。
【ご意見 に対し】	・少子高齢化や人口減少により地域活動が弱体化してきているが、小中学生のうちに自分にとって特別な地域だという価値観を持たないと、その先の人生で地域への関わり方が大きく変わってくると思う。市内でも特に地域行事の取り組みが色濃い八幡平地域では、他地域に比べて人口や活動自体があまり減ってきていないという特徴があり、自分一人ではなく地域と一緒に生きているんだというつながりを保てるようにしていきたい。 ・学校側としては、地域の力をどのように取り入れていくのか具体的な形を提示して、地域の人から参加していただく門戸を広げて関わりを作っていくことが大事だと考えている。

Ⅲ スポーツ推進の重点目標

(1) 生涯スポーツの普及推進

① チャレンジデーの開催

【ご意見】	・全国的に参加率が低かった中でも、鹿角市として参加できたことはよかったと思う反面、内容については、市民一体で取り組もうという機運が高まらず、盛り上がりには欠けたと感じる。集計方法の変更が意欲や勝負の意識につながらなかったと思うし変更点も周知不足だったと思う。
【ご意見 に対し】	・実施事業の事前登録が必要だったことと、スマートフォンのアプリを使って報告する形に変更となったため、市民センターに事前登録した事業は集計されたが、その他はスマホを使って参加者個人が報告しなければならなくなった。市広報でQRコードの読み取りやダウンロードについても周知したほか、笹川財団の方ではコロナ禍でも参加してもらえるよう動画配信等工夫していたが、アプリのダウンロードができず、報告していない人が多数いたため、今回の参加率になったと思われる。

③ 総合型地域スポーツクラブの育成

【ご意見】	・現在市内に3つのクラブがあるが、自立できているものはほぼなく、県内でも継続していけないクラブが多数ある中で、今後のスポーツクラブの位置づけやあり方をどのように考えているのか。
【ご意見 に対し】	・設立当初から3団体が個々に独自の活動をしてきているが、金銭的な助成ができるかなどの関わり方を含めて、県の担当者との情報交換やご指導をいただきながら、進めたいと考えている。

(3) 指導体制の確立と指導者の育成

② 指導者の育成と活用

【ご意見】	・成果指標の市スポーツ少年団指導者等登録人数については、日本スポーツ協会資格制度への移行により当然減っていくため、令和7年度目標数値の330人は実態に合うように見直した方がよいのではないかと。
【ご意見 に対し】	・令和元年度から制度が変わったが、3年度は講習会で10人が資格取得している。指導者の確保が重要となっており、今年度予定されている講習会の状況を見極めて必要な場合には見直しをしていきたい。

(2) スポーツによるまちづくりの推進

(3) 指導体制の確立と指導者の育成

(4) スポーツ施設の利用促進と整備

【ご意見】	・コロナ禍の現状を考えれば、令和7年度の目標数値を必ずしも達成しなくても、感染対策をしながらスポーツイベントや施設整備を頑張って実施したと思うので、(2)、(3)、(4)の「目標をやや下回る」から「ほぼ目標どおり」に1ランク上げてよいと思う。
-------	---

Ⅳ 文化芸術振興の重点目標

(3) 世界遺産登録の推進

①-1 世界遺産登録推進事業

【ご意見】	・大湯環状列石の世界遺産登録が実現し、ストーンサークル館の来場者も増え、ボランティアガイドの需要も急増しており、目標をはるかに上回る反響があったと思う。まずは登録達成ということで、評価を「ほぼ目標どおり」から「目標を上回る」に1ランク上げてよいと思う。
-------	--